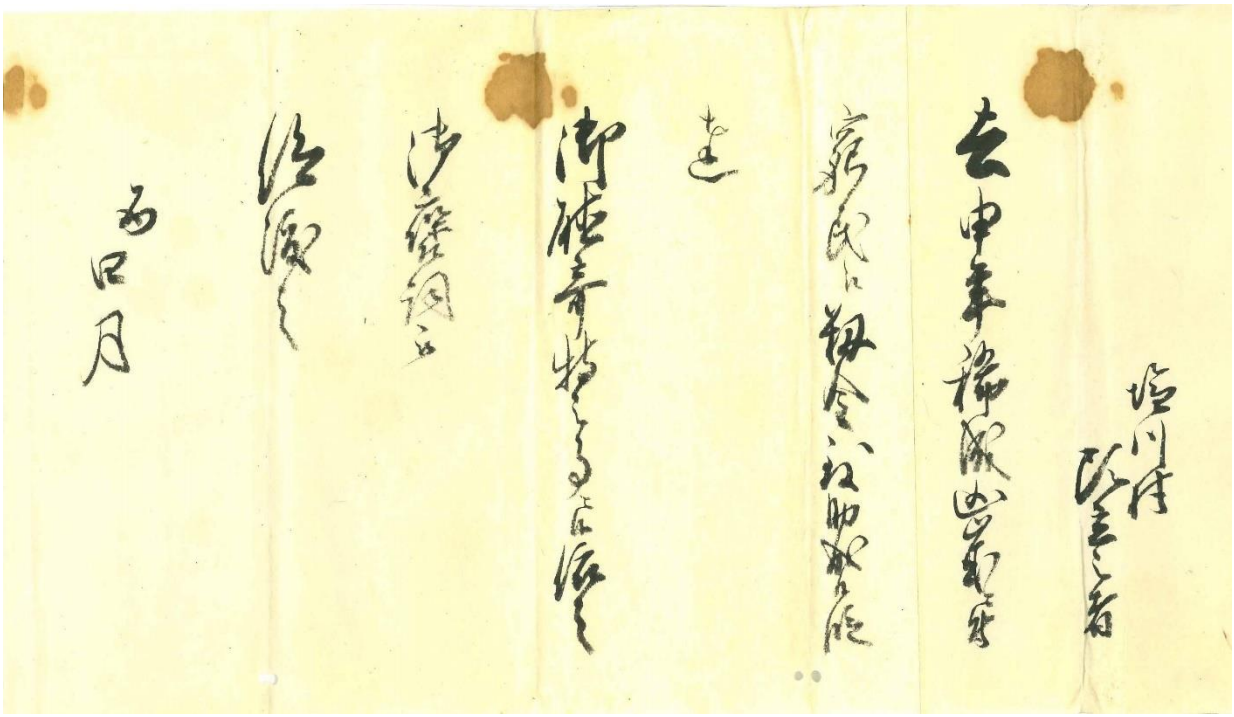
もんじょ紹介　No.29

相杜神社文書（095）・塩川区有文書（101）から

Ⅰ　相杜神社文書
　1　村送り状
　2　用水出入関連（水争い）
　3　相杜神社御本社関連
　4　相杜神社修繕関連

Ⅱ　塩川区有文書
　1　褒詞・褒状
　2　永隆寺土地関連
　3　収穫地価地租・土地台帳
　4　日野村大字塩川之内絵図



101-254「凶作ニ付窮民助成褒詞（酉四月）」

須坂市文書館

０９５　相杜神社文書について

相杜神社については、『長野縣町村誌』北信編によると以下のように記されている。

村社　社地東西四十九間四尺、南北十四間三尺、面積二反四畝歩、村の西南字相森にあり。
祭神建御名方命、園大納言基富卿の息女乙姫の霊を合祭す。
古老の伝に言う、昔天文年中乙姫君恋人を慕い相森の地に至り、尚相合うことを得ざれば、本所に於いて自殺せられしが、其短刀が里人へたたりをなす。故に不明明神と称し村社に其霊魂を合祭せしと言う。創建年月未詳。

史料（６９５－２）によると、明治９年（1876）11 月 27 日付社号改称許可証に「相森組鎮座諏訪社、改称相杜神社」とある。

本文書は総点数 1,881 点で、明治から昭和 20 年代までの相杜神社および相森地区関係の史料が多く、江戸期の史料は少ない。日中戦争・アジア太平洋戦争にかかわる史料が比較的多数残されている。

ここでは、以下の４項目にしぼって紹介する。

1	村送り状	（婚姻・養子縁組・不縁・名跡・寺送り　等）	8 点
2	用水出入（水争い）	（対高井野村、黒部村　ほか）	4 点
3	相杜神社御本社関連	「行烈帳」	2 点
4	相杜神社修繕関連	「燈籠倉修繕費支拂内訳簿」	1 点

１０１　塩川区有文書について

旧日野村塩川区が所蔵していた文書で、総点数は 1,192 点である。明治期から町村合併前後の昭和 30 年代までの史料が多く、ここでも江戸期の史料は少ない。

江戸後期の須坂藩関連の史料として、若殿様御乗出、御勝手向御改革、拝領御屋敷地替、駿府御加番などにあたっての（11 代直格・12 代直武のころと推定される）、献上金や助成金に対する「褒詞・褒状」など 16 点が残ることは本文書の特徴といえる。今回は、その中から 11 点を紹介する。

土地関連の史料としては、明治６年（1873）４月の「一筆限村絵図」など 11 点、同８年袋入りの「村絵図」「地番絵図」など 15 点、同 23 年１月の「日野村大字塩川之内字絵図」10 点、さらに年未詳の「地番絵図綴」６点、「境界線野絵図」11 点などが目立っている。また、相杜神社文書同様に戦時史料も少なくない。

以下４項目にしぼって紹介する。

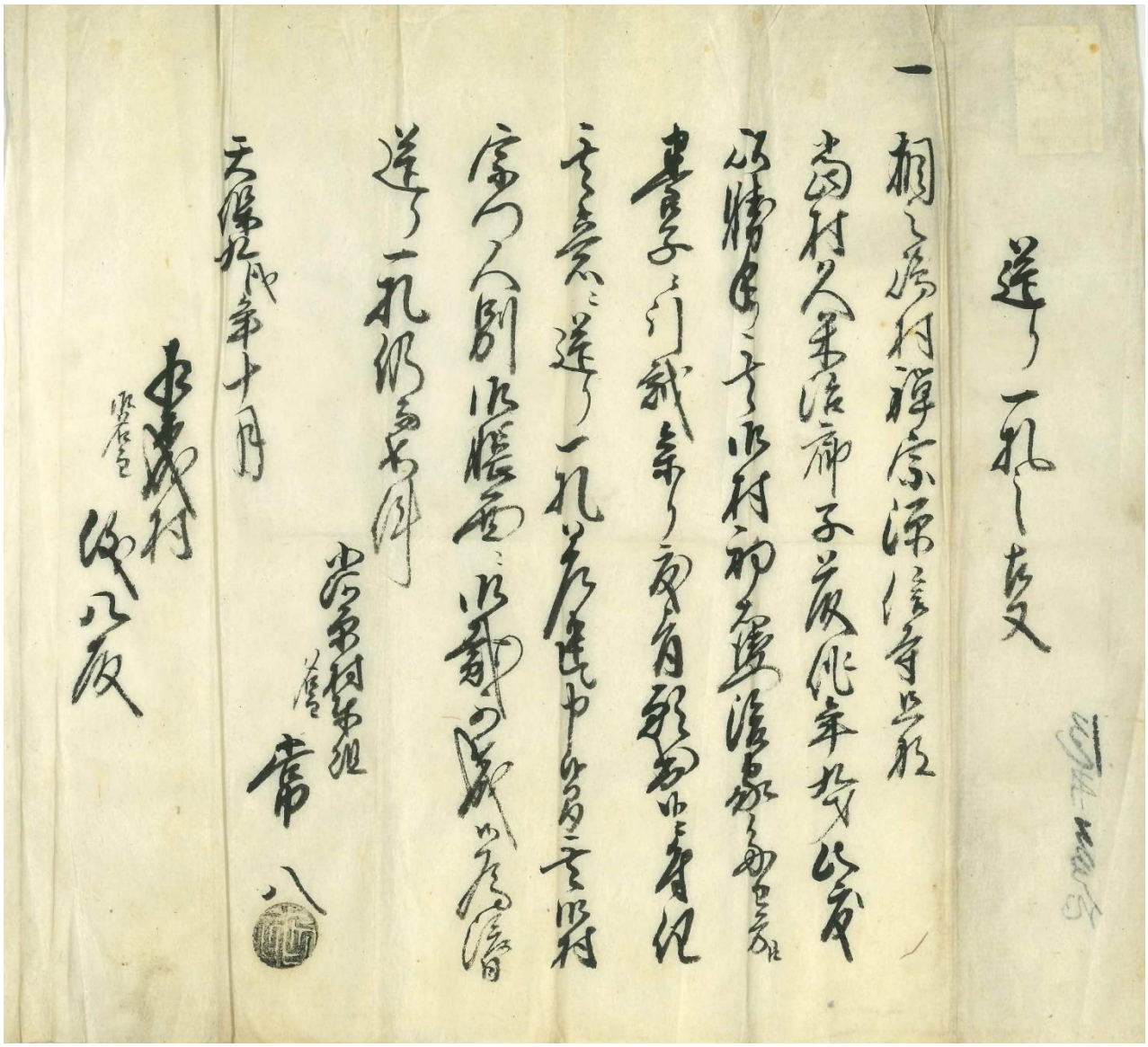
1	褒詞・褒状	11 点
2	永隆寺土地関連	3 点
3	収穫地価地租・土地台帳	8 点
4	日野村大字塩川之内絵図（10 点の内、字岩舟・寺澤）	2 点

（須坂市文書館　大塚尚三）

Ⅰ　相杜神社文書（095）

1　村送り状

095-1　送り一札（藤作、初右衛門後家多せ方養子に引越）



（端裏書）　　徳井藤作

送り一札之事

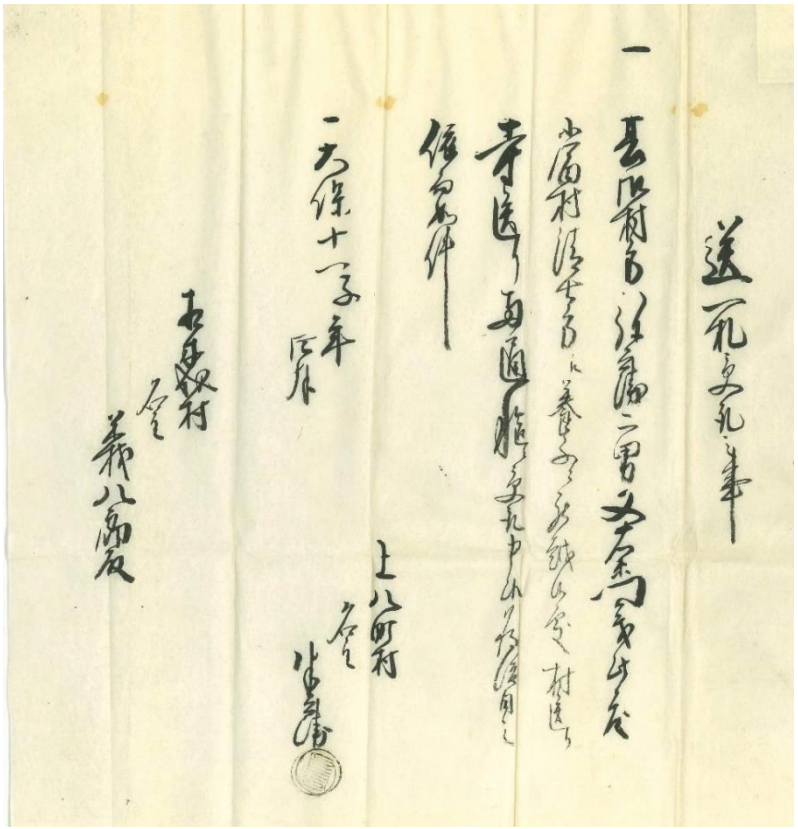
一相之嶋村禅宗源信寺旦那
當村久米治郎子藤作年九才、此度
以勝手ヲ其御村初右衛門後家多せ方江
養子ニ引越参り度旨願出候ニ付、任
其意ニ送り一札差遣し申候間、其御村
宗門人別御帳面ニ御載可被成候、為後日
送り一札仍而如件

小河原村東組
名主　常八㊞

天保九戌年十月
相森村
御名主　儀八殿

〈解説〉
小河原村東組久米治郎（相之嶋村源信寺旦那）の子藤作（9才）を、相森村初右衛門の後家たせ方へ養子に出すので相森村の宗門人別帳に載せてくださいという送り状。

095-2 送一札受取状（又右衛門、清七方之養子に罷越）

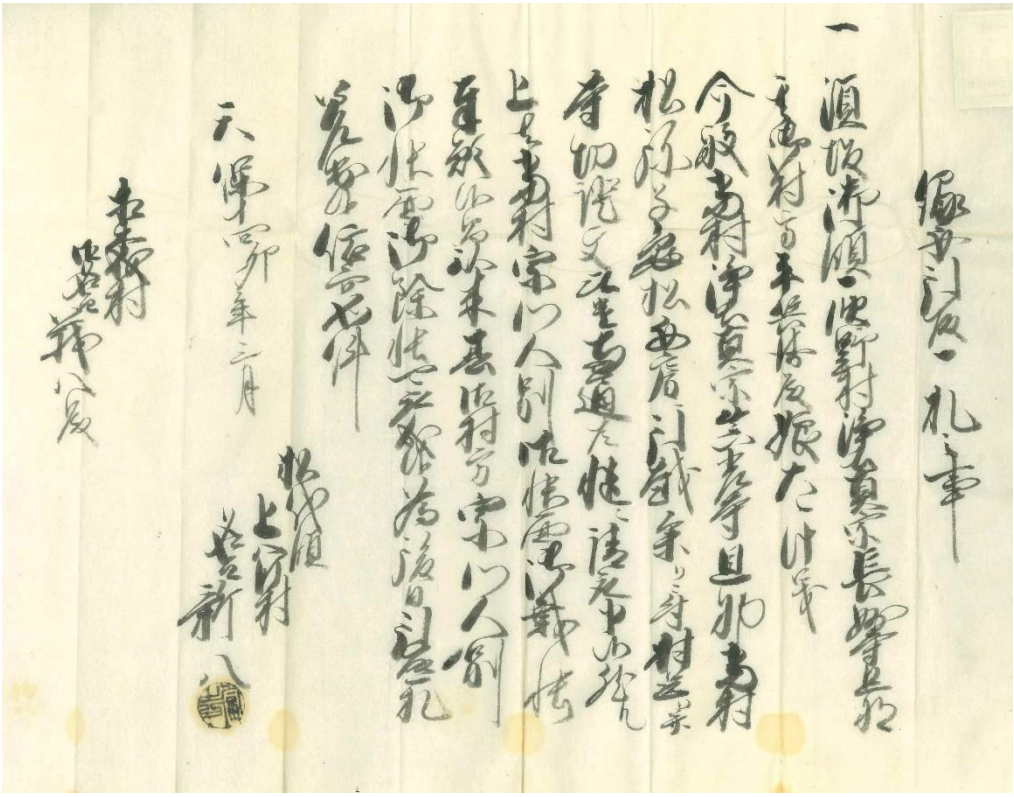


（上紙）　送り受取
　　送一札受取之事
一其御村方弥兵衛二男又右衛門義、此度
當村清七方江養子ニ罷越候處、村送り
寺送り両通慥ニ受取申候、為後日之
仍而如件

上八町村
天保十一子年　　名主　半兵衛㊞
四月

相森村
名主　義八郎殿

095-4 縁女引取一札（たけ、亀松女房に引越）



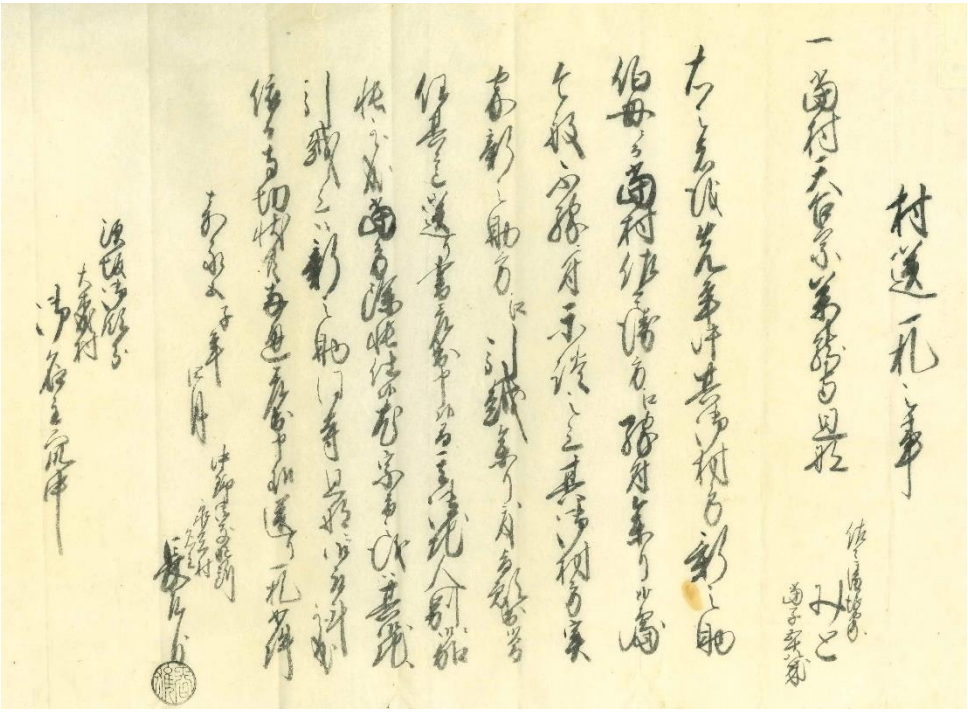
〈解説〉
相森村平兵衛（灰野村浄土真宗長妙寺旦那）の娘たけが、上八町村松弥（浄土真宗眞光寺旦那）の子亀松の女房に来たので、村送り状と寺切り証文の２通を受け取った。当村の宗門人別帳に載せるので相森村の宗門人別帳から除いてくださいという引取り状。

095-3 村送り一札（条十郎一家引越に参）

（上紙）　村送り　　高井郡牧村
　　村送り一札之事
一浄土真宗中山田村徳正寺代々旦那
　　當村
　　条十郎
　　當三十才
　同人女房
　　やす
　　同三十二才
　同人母
　　志ま
　　同五十四才
　同人弟
　　重蔵
　　同十八才
　同人妹
　　ます
　　同十五才
右之者共當村慥成百姓ニ御座処、此度勝手を以其御村方江引越参度旨願出候ニ付、任其意送り状差出候間、其御村方宗門人別帳面ニ御加入可被下、然上ハ万事御心添奉願上候、為後日村送り一札仍而如件
　　天保十三年
　　寅三月日
　　高井郡牧村
　　名主　栄左衛門㊞
　相森村
　　儀八殿

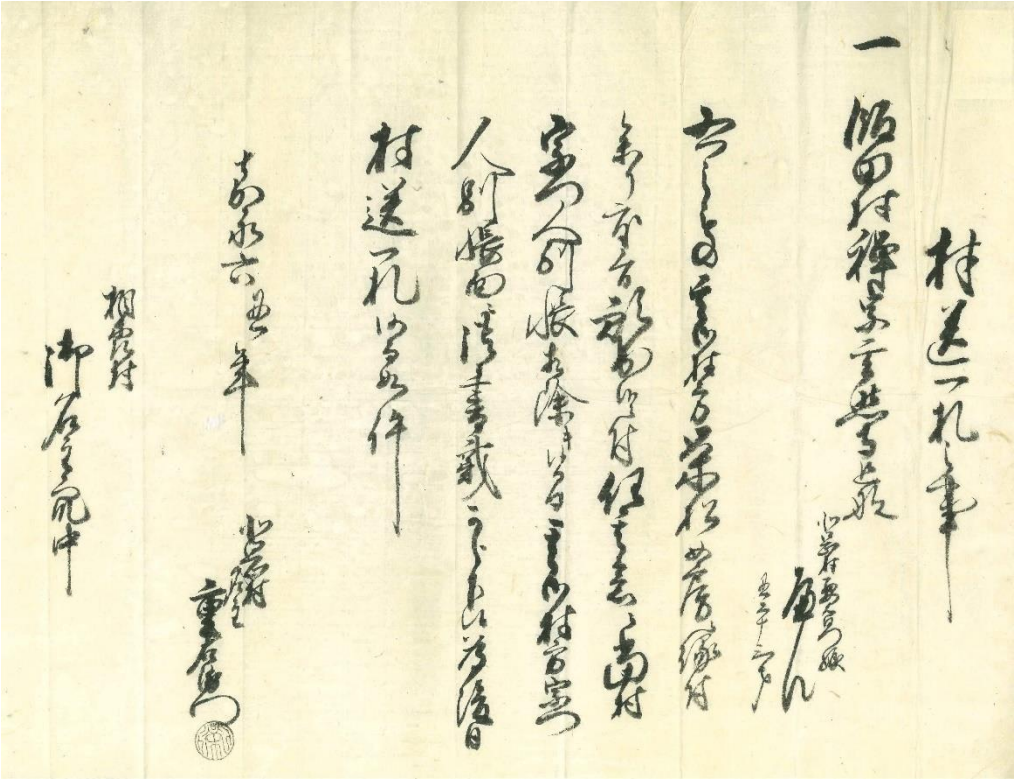
〈解説〉
牧村条十郎（山田中村徳正寺旦那）の一家五人が相森村へ移住するので、相森村の宗門人別帳に加えてくださいという送り状。

095-11 村送一札（みと、不縁に付示談之上実家新之助方之引越）



〈解説（書き下しは4ページ）〉
亀倉村佐兵衛（亀倉村天台宗萬龍寺旦那）の後家みと（58才）が、相森村の実家新之助方へ帰りたいというので送り状を差出す。相森村の人別帳に載せ、亀倉村の人別帳から除く。宗旨は新之助同寺旦那としてください。そこで、村送り状と寺切り状の2通を送るという送り状。

095-16 村送り一札（へん、栄松女房に縁付）



村送一札之事

一飯田村禅宗玄照寺旦那
北岡村要右衛門娘
遍ん
丑二十三才

右之もの其御村方栄松女房ニ縁付
参り度旨願出候ニ付、任其意ニ當村
宗門人別帳相除キ候間、其御村方宗門
人別帳面ニ御書載可被下候、為後日
村送一札仍而如件

北岡村
嘉永六丑年　名主　重右衛門㊞
相森村
御名主衆中

〈解説〉
北岡村要右衛門（飯田村禅宗玄照寺旦那）の娘へんを、相森村栄松の女房に縁付く。北岡村の宗門人別帳から除いたので相森村の宗門人別帳に載せてくださいという村送り状。

※095-11の書き下し

（上紙）　村送り書　　亀倉村

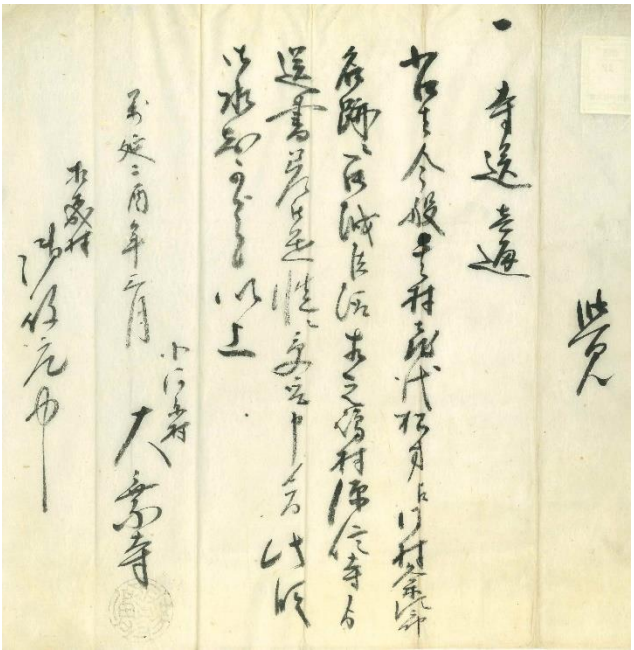
村送一札之事

一當村天台宗萬龍寺旦那　　佐兵衛後家
みと
當子五十八歳

右之者儀先年中其御村方新之助
伯母ニ而當村佐兵衛方江縁付参り候處、
今般不縁ニ付示談之上其御村方実
家新之助方江引越参り度旨願出候間、
任其意送り書差出申候間其御地人別帳ニ御加
帳可被成當方除帳仕候、尤宗旨之儀ハ其御地
引越ノ上ハ新之助同寺旦那ニ御取計可被成候、
依而寺切状共両通差出申処送り一札如件

嘉永五子年
四月　中野御支配所
亀倉村
名主　長左衛門㊞
須坂御領分
大森村
御名主衆中

095-28　寺送覚（小河原村条次郎、喜代松方之名跡に罷越）



覺

一寺送　壱通

右者今般其村喜代松方江同村条次郎名跡ニ罷越候趣、相之嶋村源信寺より送書差被遣慥ニ受取申候間、此段御承知可被下候、以上

小河原村
大乗寺㊞

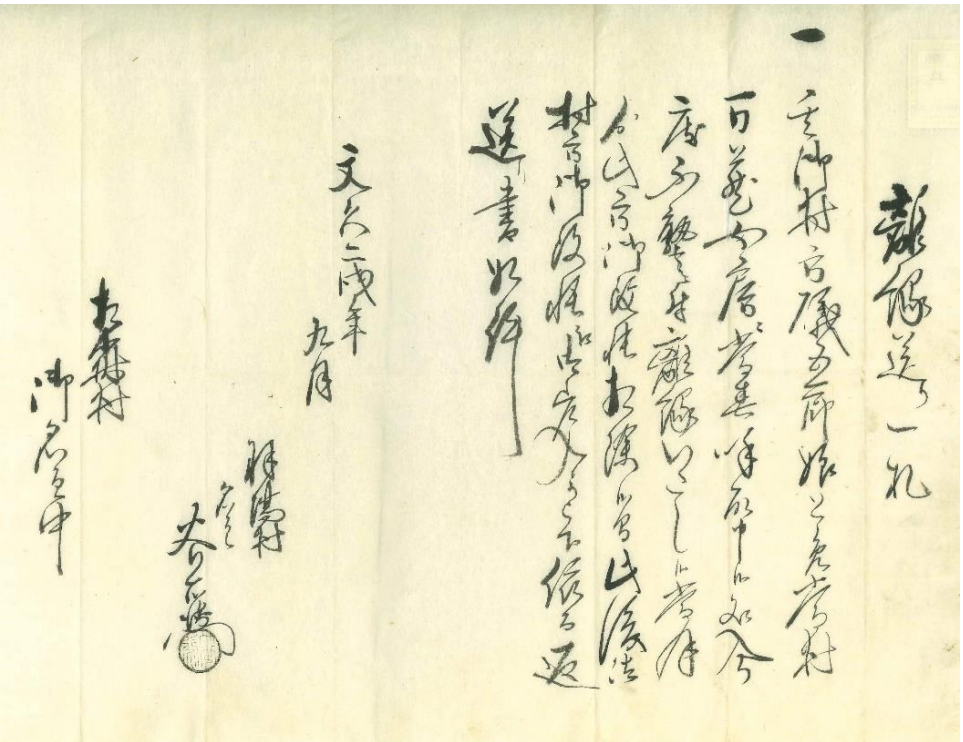
萬延二酉年三月

相森村
御役元中

〈解説〉

相森村の喜代松方へ相森村の条次郎が名跡（跡継ぎ）に入るという、相之嶋村源信寺からの寺送り状を小河原村の大乗寺が確かに受け取ったという覚。

095-32　離縁送り一札（とめ、万歳女房に当春呼取申候処不熟に付離縁）



（上紙）　離縁村送り一札

離縁送り一札

一其御村方磯五郎娘と免、當村万蔵女房ニ當春呼取申候処、今度不熟ニ付離縁いたし候、當月より此方御改帳相除候間、此後御村方御改帳江御差入可被下、依而返送り書如件

文久二戌年九月

羽場村
名主　谷右衛門㊞

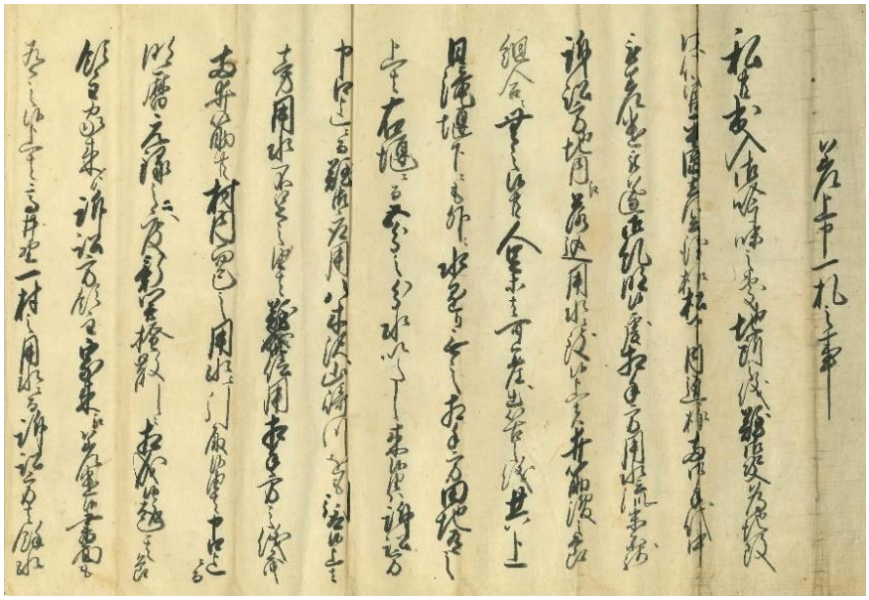
相森村
御名主中

〈解説〉

相森村磯五郎の娘とめは、羽場村万蔵の女房に今年の春来たがこのたび離縁した。今月から羽場村の改帳から除いたので相森村の改帳に差し入れてくださいという村送り状。

2 用水出入関連

095-349 日滝村と高井野村水論裁許申渡一札

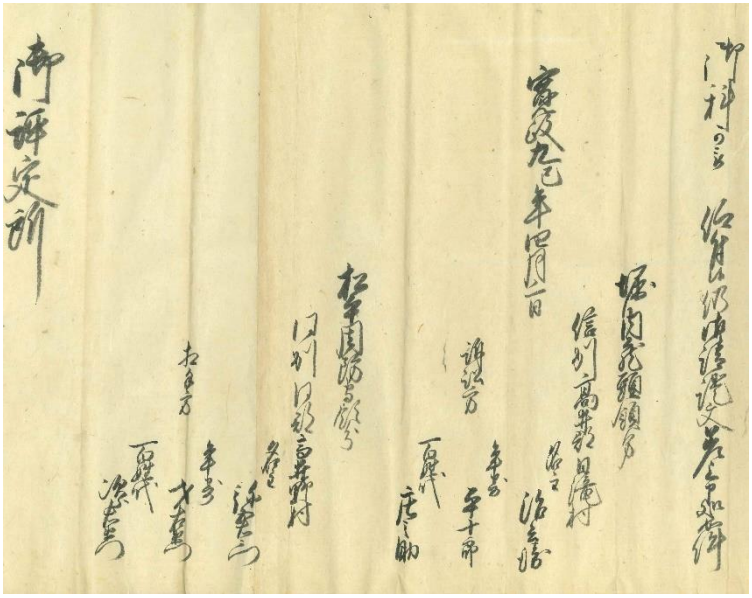


差上申一札　　寛政九巳年四月二日　（１７９７）

訴訟方　　堀内蔵頭領分
　　信州高井郡日滝村
　　名主　治兵衛
　　年寄　平十郎
　　百姓代　庄之助

相手方　　松平周防守領分　（石見国浜田領飛び地）
　　同国同郡高井野村
　　名主　弥五右衛門
　　年寄　才右衛門
　　百姓代　次郎右衛門

御評定所



（中略）

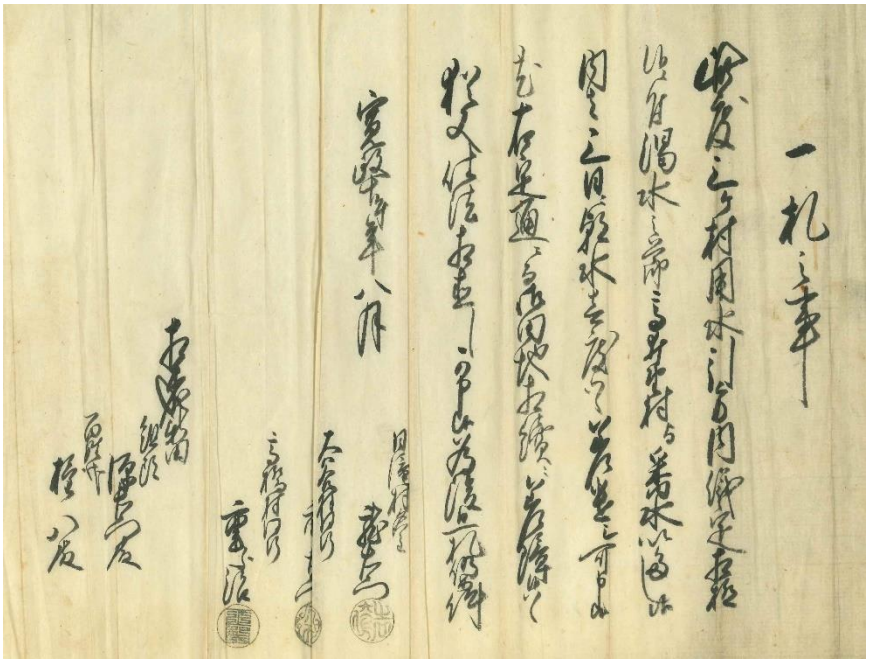
〈裁許申渡の内容〉

○上黒部村内にて双方立会
　六分は思川へ引取り。四分は紫川へ引分け。相手方（高井野村）は田方用水・呑水にも用いる。

○苗代植付渇水の節は、両村境にて〆切り
　相手方へ三日。その後相手方水口〆切り、訴訟方（日滝村）へ三日。

○水車の儀は、有来りのほか新規の取立て申すまじき（造らない）

95-352 日滝大谷壱拾三ヵ村と相森新田内議定一札



〈解説〉

一札之事

寛政十年八月　（1798）

日滝村名主　蔵右衛門㊞

大谷村同断　市郎右衛門㊞

高橋村同断　重郎治　㊞

相森新田

組頭　源右衛門

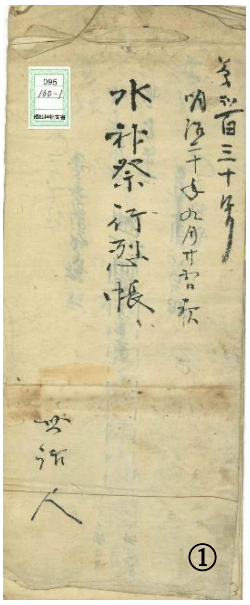
百姓代　権八

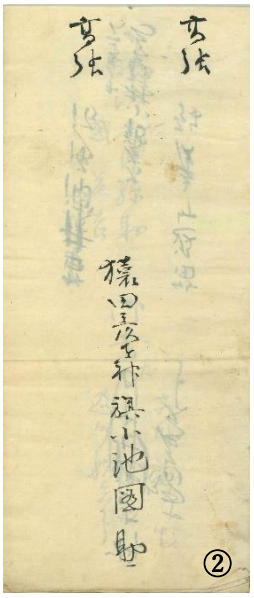
〈内議定の内容〉

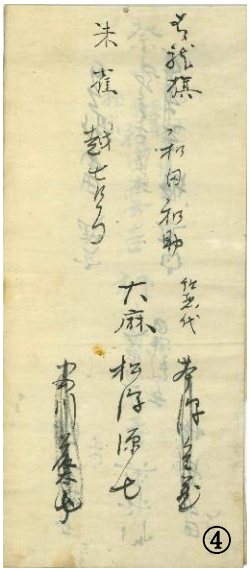
○　渇水の節、高井野村より番水いたし候うちは（相森新田へ）三日に朝水を一度ずつ差遣わす

3　相社神社御本社関連

095-160-1　水神祭行烈帳（明治 20 年 9 月）







第弐百参十号

明治二十年九月廿五日夜

水神祭行烈帳

世話人

高張	高張	御神酒	青龍旗　和田和助　　組惣代　本澤金蔵
猿田彦太神旗　小池図助		井浦孫助　宮川藤七	大麻　松澤源七
②		③	④
①		御肴大	朱雀旗　越七左衛門　宮川藤太郎
		越　藤吉　退町秋三郎	

4 相社神社修繕関連

095-160-10 相社神社正遷宮行烈帳(明治 25 年 11 月)

明治廿五年十一月廿四日（1892）　①

相杜神社正遷宮行烈帳

祭典掛　扣㊞

杖拂　羽織袴　羽織袴　②
一　一猿田彦太神旗
杖拂　羽織袴

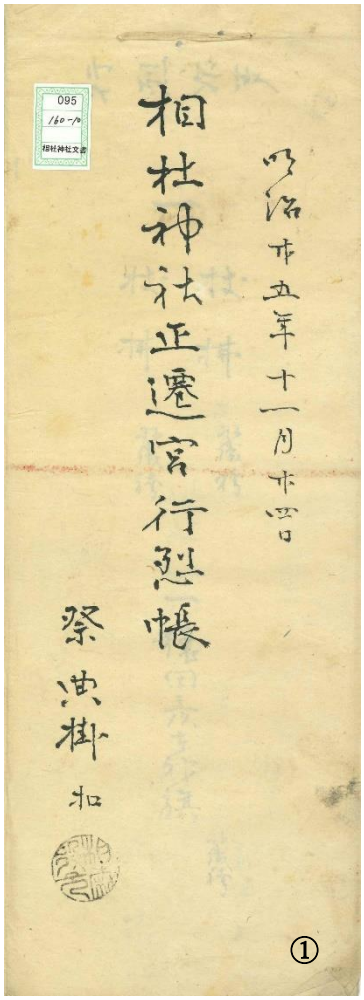
一大太鼓　羽織袴　装束
一笛　羽織袴

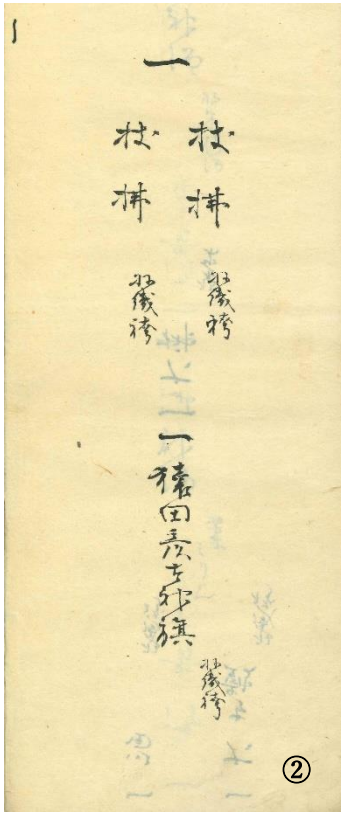
一大榊　装束精酒
一御神酒　装束　ミりん
一御神酒

装束　装束　装束　装束　装束
一御肴大魚　一御肴小魚　一御鏡餅　一御鏡餅　一御蒸菓子　一干菓子

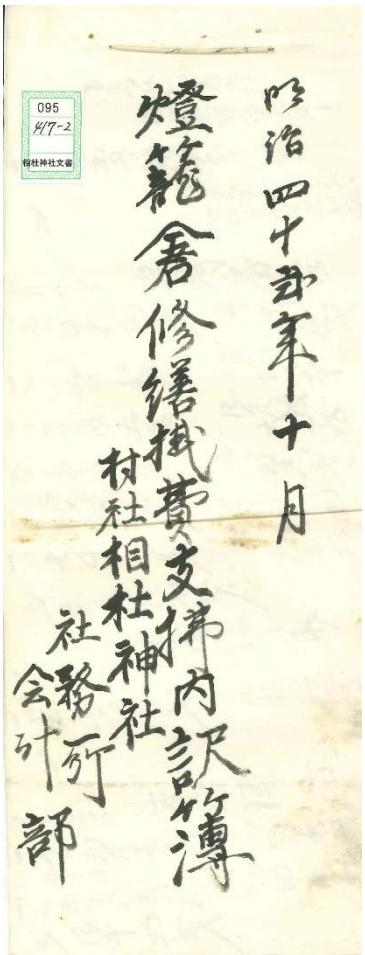
装束　装束　装束　装束　装束
一木実　一野菜青物　一野菜干物　こんぶ　一御散米　一音楽　一大幣

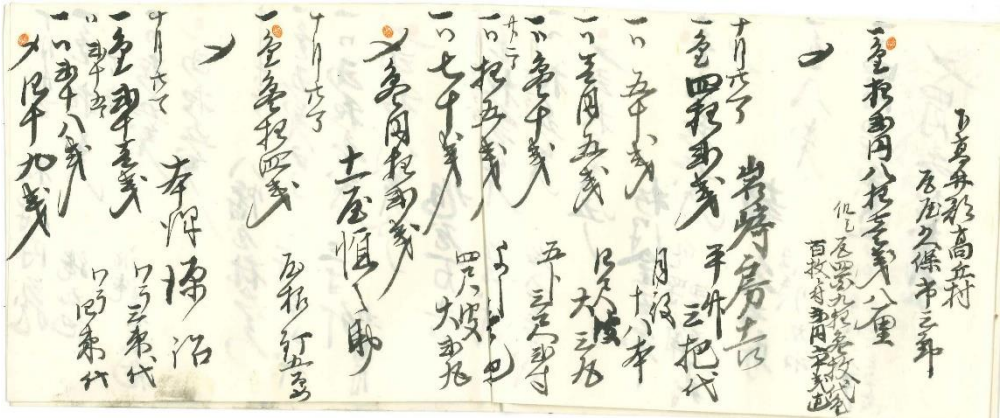
一青龍旗　羽織袴　神官　一玄武旗　羽織袴　大傘
御神輿　白丁二人　祭主　警固中　邊物
一朱雀旗　羽織袴　神官　一白虎旗　羽織袴　鋏箱

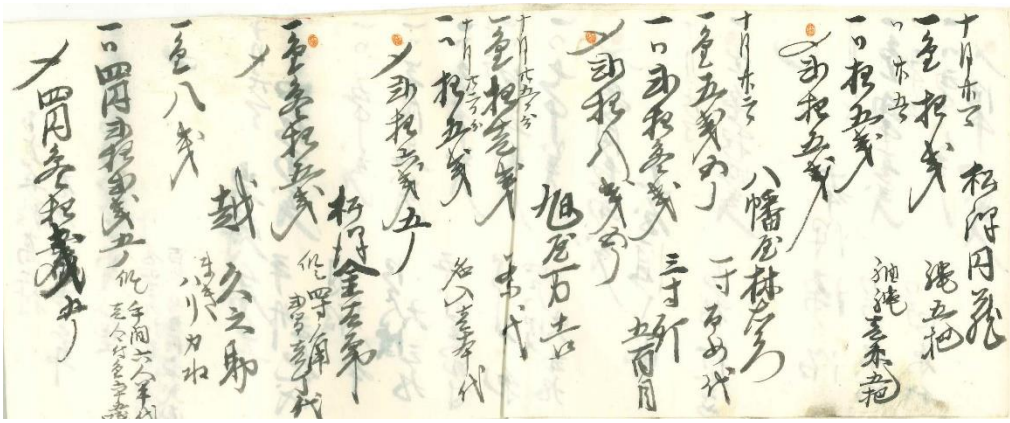




095-417-2 燈籠倉修繕費支拂内訳書







明治四十弐年十月
燈籠倉修繕掛費支拂内訳簿
相杜神社
社務所　会計部

「燈籠修繕掛費支拂内訳簿」

氏　　名	主たる品物	金　　額	備　　考
瓦屋　久保市三郎	瓦	12 円 81 銭 8 厘	瓦 493 枚、100 枚ニ付 2 円 60 銭
岩崎　房吉	四尺皮・よし	3.　12.	
土屋恒之助	屋根釘	34.	
本澤　源治	ワラ	49.	
松澤　円蔵	縄	25.	
八幡屋　林右衛門	釘	28.　5	
旭屋　　万吉	茶・名入	26.　5	
松澤金太郎	四寸角	35.	
越　久之助	まき・ハリ金	8.	
	手間	4.　22.　5	手間 6 人半、1 人ニ付 65 銭
惣　　計		22 円 22 銭 3 厘	但、記入は 22 円 22 銭 8 厘とあり

Ⅱ　塩川区有文書（101）

1　褒詞・褒状

101-1　庄左衛門孝心褒状

文化九申年三月廿八日
公儀江御届書被差出候写

信濃国高井郡塩川村
名主　庄左衛門

文化八未年六十七歳ニ而病死仕候
右庄左衛門儀孝心之旨村役人共
訴出候ニ付相糺候之處、老母
老衰いたし寺詣等折々仕
度旨申聞候得共、足不叶ニ付
自身背負候而佛参為仕、
平日村役透有之候得者母之傍ニ
罷在用向承り、惣而心ニ悖り
候之儀無之孝行仕候、依之
寛政二戌年為褒美籾三俵
為取之候

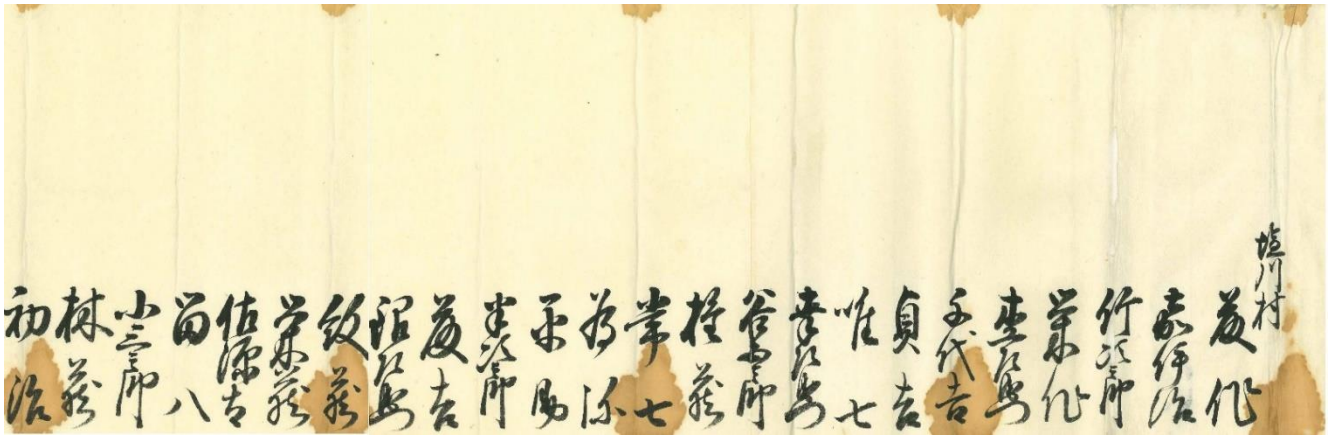
〈解説〉名主庄左衛門の老母への孝心につき、寛政2年（1790）に褒美として籾米三俵を下さる。庄左衛門は文化8年（1811）に病死したが、翌年に公儀へ届出た写。

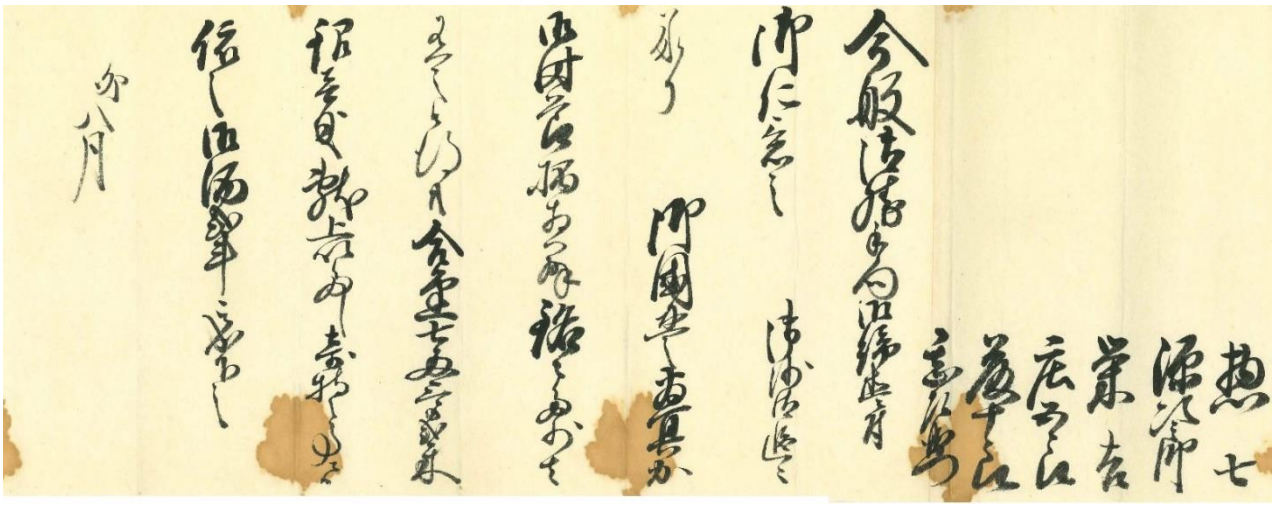
101-2　若殿様御乗出御大禮ニ付献金褒詞

塩川村
一統之者共江
其方とも義
若殿様
御乗出御大禮無御滞
被為濟候ニ付為御祝儀先
般金三両致献上其段
達
御聽寄特之事ニ候
依之為御褒詞酒五升
被成下之帰村之上可致
頂戴候
辰五月

〈解説〉若殿様（12代直武か？）が将軍にお会いした祝事に御祝儀として金三両を献上した塩川村一統の者どもに酒五升を下さる。村へ帰り頂戴するように。

101-3 御勝手向御取締ニ付献金



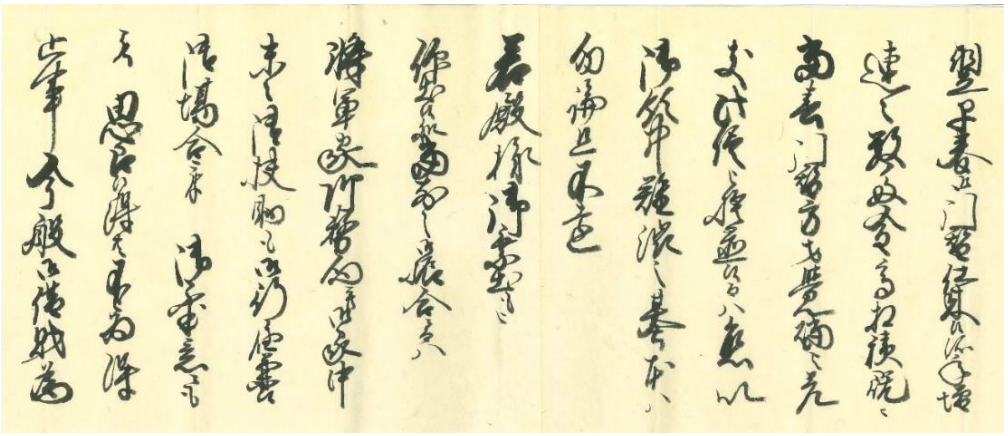


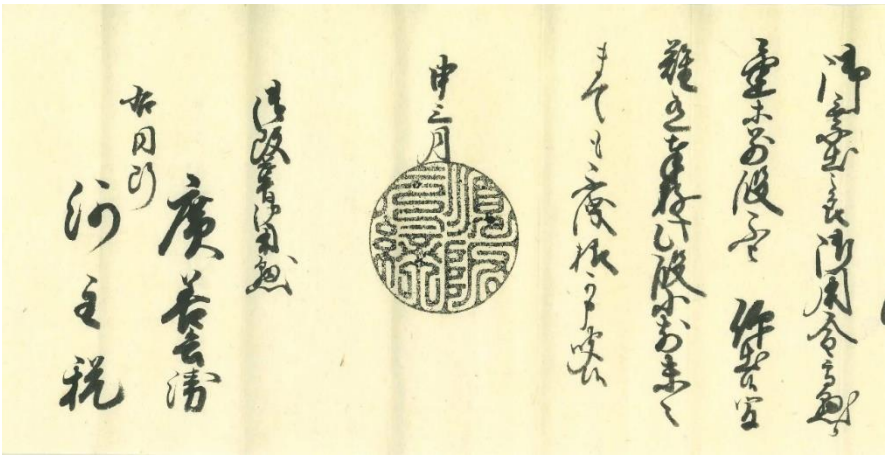
塩川村
藤作　惣七
嘉伊治　源次郎
竹次郎　栄吉
栄作　庄五良
李左衛門　藤十良
千代吉　甚左衛門
貞吉
唯七
幸左衛門
谷五郎
権蔵
常七
為弥
平助
半次郎
藤吉
銀左衛門
紋蔵
栄蔵
佐源太
留八
小三郎
林蔵
初治

今般御勝手向御締直ニ付、
御仁意之　御沙汰追々
蒙り　御國恩之為冥加
御時節柄相辨、銘々多少者
有之候得共、合金七両三分弐朱
銀壱匁献上以多し奇特之事ニ候、
依之御酒弐斗被成下之
卯八月

〈解説〉財政の締直（改革）のため金を七両三分二朱、銀を一匁献上した藤作他に酒二斗を下さる。

101-4 御勝手向御改革二付出金仰付状



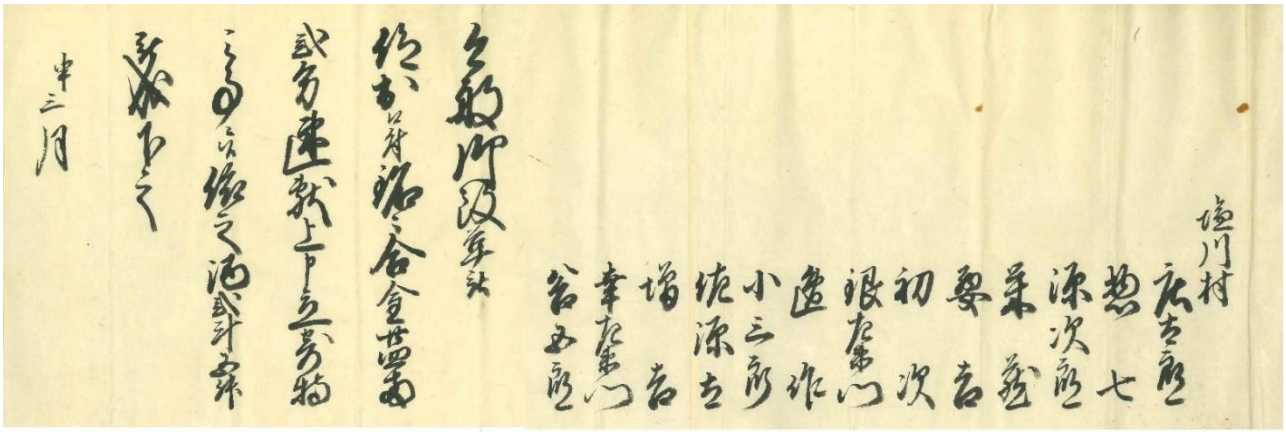


※書き下しは次ページ上段

塩川村
役人始切手
名前之もの共へ
御勝手向追々御不如意
被為成候ニ付、去ル嘉永三戌年
御改革猶又安政二卯年
御締直被為在候得共、其後
公邊御吉凶事駿府
御加番其外地震大風
両度之天變引続難御逢、
臨時御入用向多端相嵩
御手段も被為尽果候故、両暮
時之間為御凌金札被差出、
翌早春御引替仕来候所年増
連々数多金高相積、既ニ
當春引替方才覺礑与差
支此儘被捨置候而ハ愈以
御領中難渋之基本ハ
勿論、且不遠
若殿様御乗出も被
仰出候処、當前之御振合ニ而ハ
将軍家御務向幷御家中
末々御扶助も御行届兼候
御場合ニ付、　御不本意ニも
被　思召候得共不被為得
止事今般御借財為
御根切再三　御改革被
仰出候、度々之御迷惑ニ者
可存候得共相渡候割賦切手
之通出金被　仰付候間、
當御時節深相辨
御領恩為冥加乍太儀
出精、於武邊ハ　戦場之
供夫被　召連候節銘々覺
悟之働相抽候心得ニ而自他共
競無之致決心、御用途
相成候様専心掛、村役人又ハ
取寄取締共江申談否、早々
其筋江可申立候追而
御乗出之節御用金高懸り
金等別段不被　仰出候間、
難有奉存此段小前末々
までも不洩様可申聞候
申三月㊞
御改革御用懸
廣善兵衛
右同断
河主税

〈解説〉藩政改革や天災等で献上し、領民は出精している上、藩士も戦場へむかう心得でいる。よって今回の乗出（将軍の御目見得）に献上はいらない。

101-6 御改革二付献金褒詞

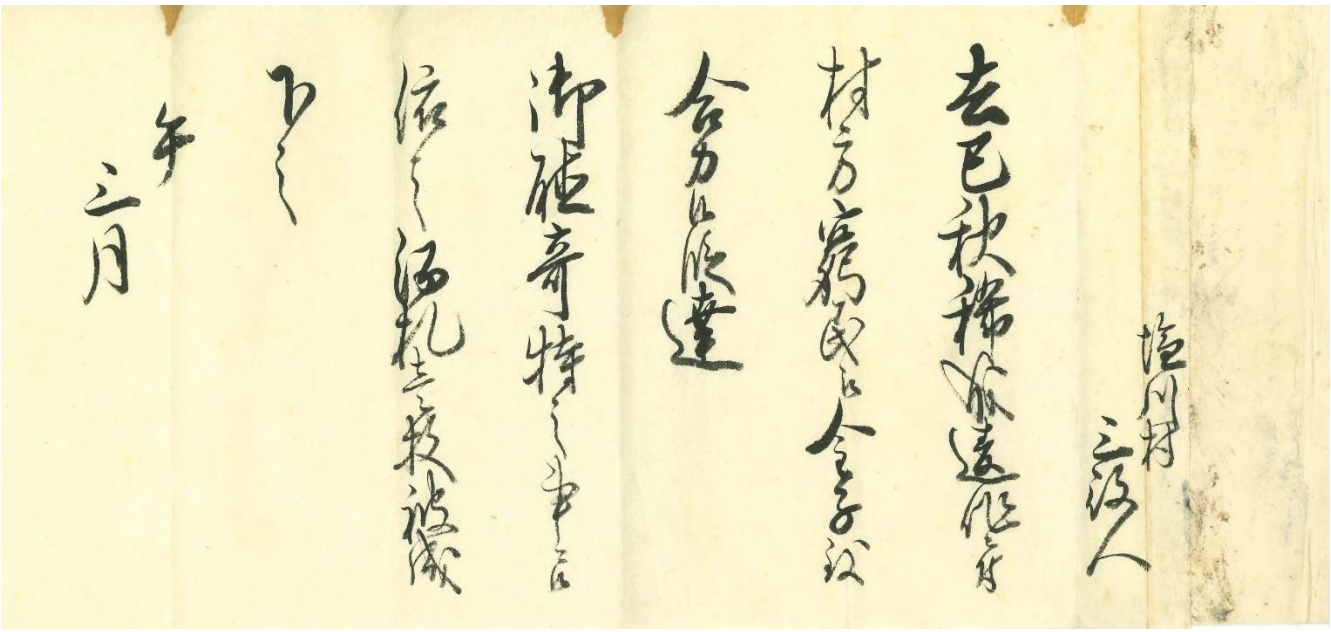


塩川村
庄太郎
惣七
源次郎
栄蔵
要吉
初次
銀左衛門
逸作
小三郎
佐源太
増吉
幸左衛門
谷五郎

今般御改革被
仰出候付、銘々合金廿四両
弐分速献上申立寄特
之事ニ候、依之酒弐斗五升
被成下之
申三月

〈解説〉藩政改革のため金二十四両二分を献上した塩川村庄太郎外に酒二斗五升を下さる。

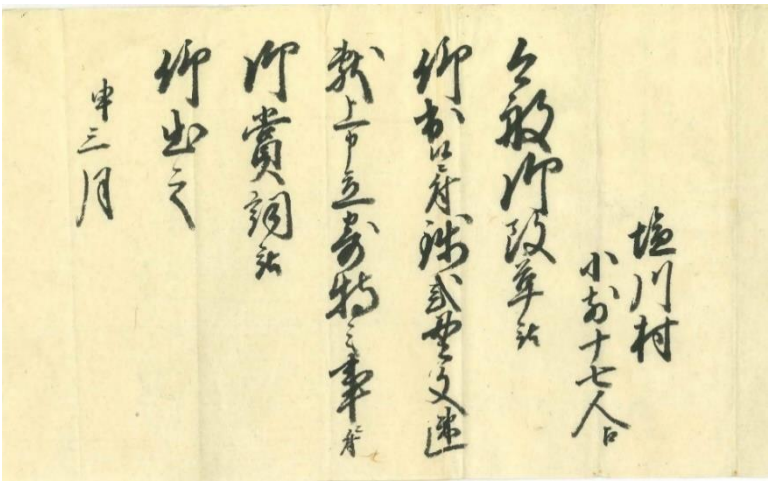
101-251 窮民合力ニ付褒状



塩川村
三役人
去巳秋稀成違作ニ付
村方窮民江金子致
合力候段、達
御聴奇特之事ニ候、
依之酒札壱枚被成
下之
午三月

〈解説〉
去巳秋は、天保4年（1833）の凶作年と思われる。窮民合力の村三役人に酒札一枚を下さる。

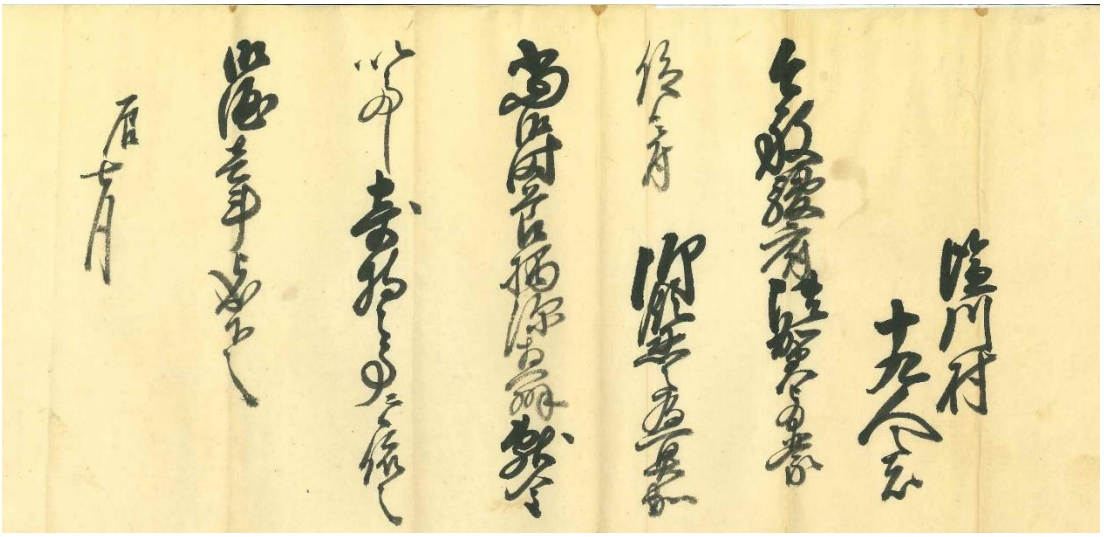
101-252 御改革ニ付献金褒詞



塩川村
小前十七人江
今般御改革被
仰出候ニ付銭弐貫文速
献上申立寄特之事ニ付、
御賞詞被
仰出之
申三月

〈解説〉
藩政改革のため銭2貫文を献上した小前百姓17人に御褒詞を下さる。

101-253 駿府加番二付献金褒状



塩川村
十九人之者
今般駿府御加番被為蒙
仰候ニ付　御領恩之為冥加、
當御時節柄深相辨献金
いたし奇特之事ニ候、依之
御酒壱斗被成下之
辰七月

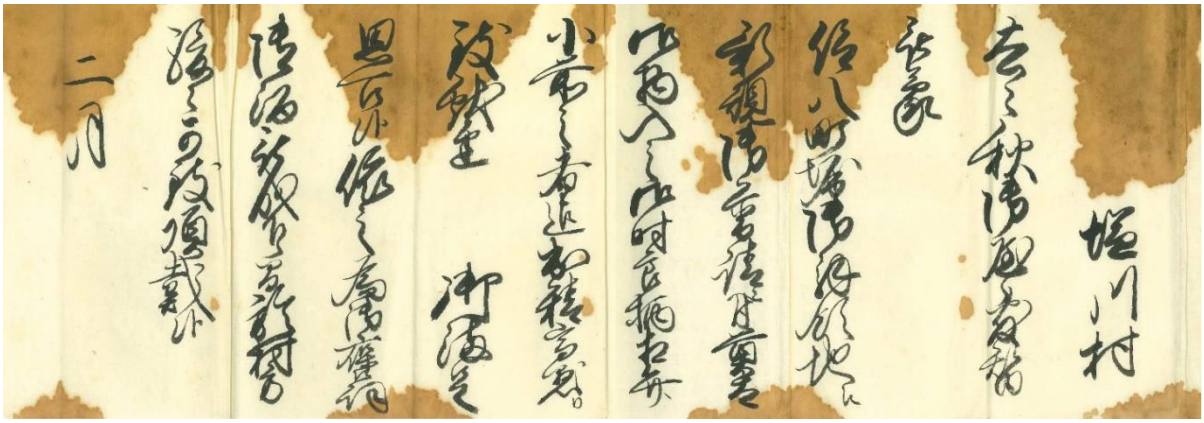
〈解説〉
殿様（12代直武か？）が駿府加番を命じられたときに、献金した者19人に酒一斗を下さる。

101-254 窮民助成二付褒詞

塩川村
頭立之者
去申年稀成凶歳ニ付
窮民江籾金致助成候段、
達
御聴奇特之事ニ候、依之
御褒詞被
仰渡之
酉四月

〈解説〉
去申年は、天保7年（1836）の凶作年と思われる。窮民救済に籾米・金子を助成した頭立（村役人クラス）の者に御褒詞を下さる。

101-256 御屋敷替二付献金褒詞



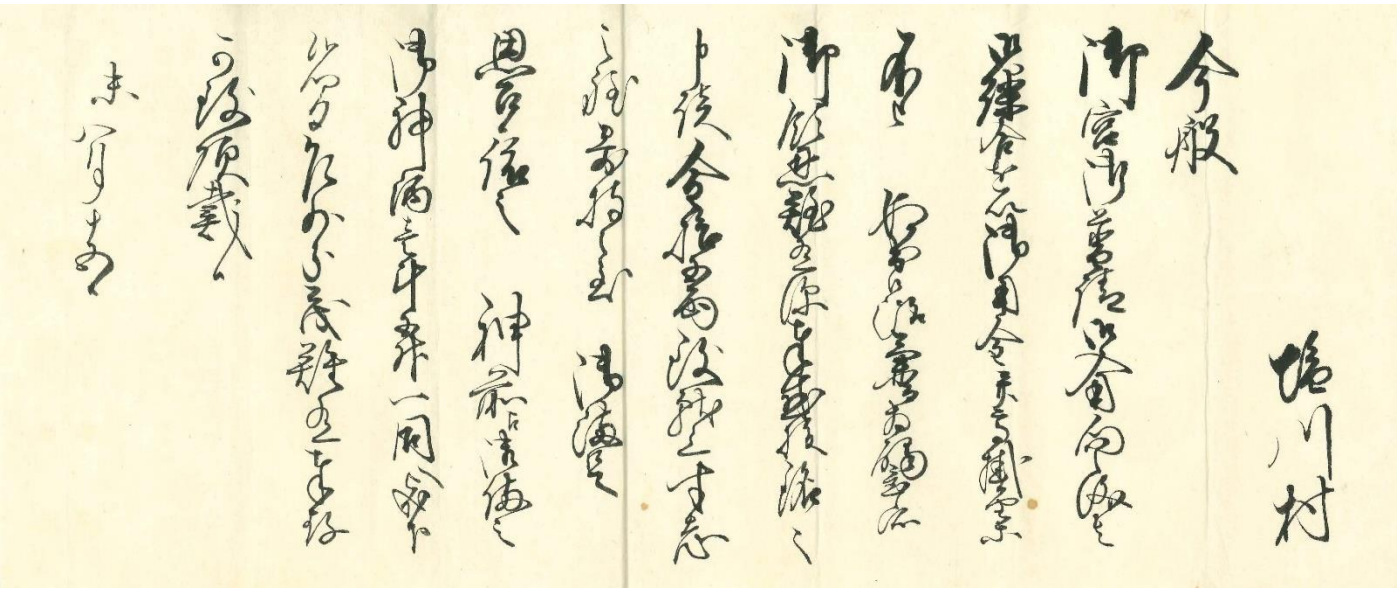
塩川村

去々秋御屋敷替
被蒙
仰八町堀恩拝領地江
新規御普請ニ付、莫太
御物入之御時節柄相弁
小前之者迫出精、高懸り
致献金　　御満足
思召候、依之為御褒詞
御酒被成下候間於村方
後々可致頂戴候

二月

〈解説〉
八町堀へ江戸上屋敷が拝領替え（移転）した11代直格の天保5年（1834）の際のこと。献金した塩川村へ酒を御褒詞として下さる。村方で頂戴せよ。

101-257 御宮御普請御入用二付献金褒状



塩川村

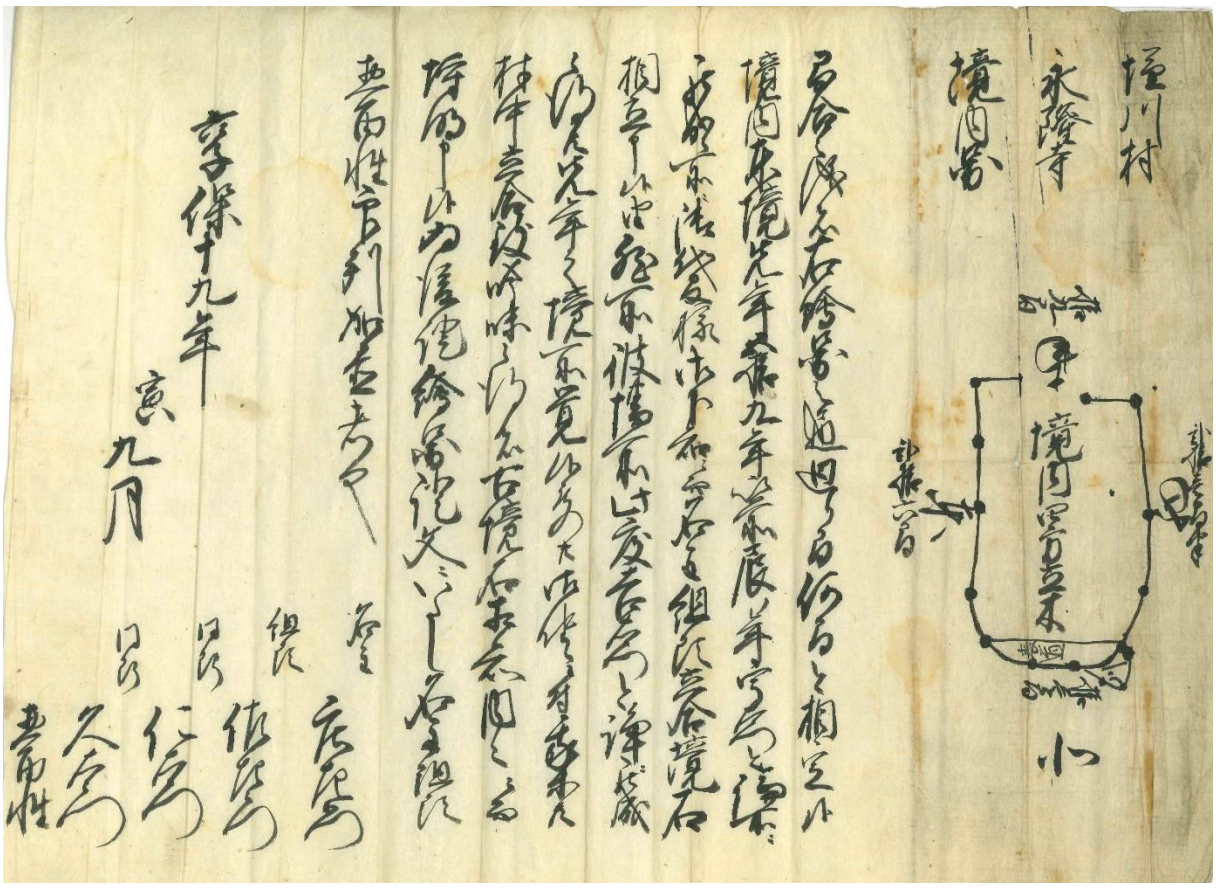
今般
御宮御普請御入用向之儀者
御繰合を以御用金幷高掛金等
不被　仰出候趣兼而為觸置候所、
御領恩難有深奉成服、銘々
申談金拾五両致献上寸志
之程奇特之至　御満足
思召候、依之　神前江御備之
御神酒壱斗五升一同へ被成下
候間、乍少分茂難有奉存
可致頂戴候

未八月十五日

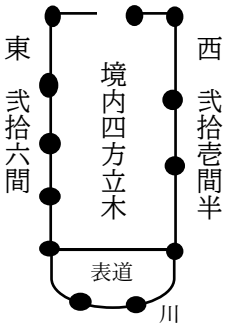
〈解説〉
御宮御普請にあたって御用金15両を献上した塩川村に対し、少分ではあるが御神酒一斗五升を下さる。

2　永隆寺土地関連

101-27　永隆寺境内図



塩川村
永隆寺　　拾九間　南
境内圖



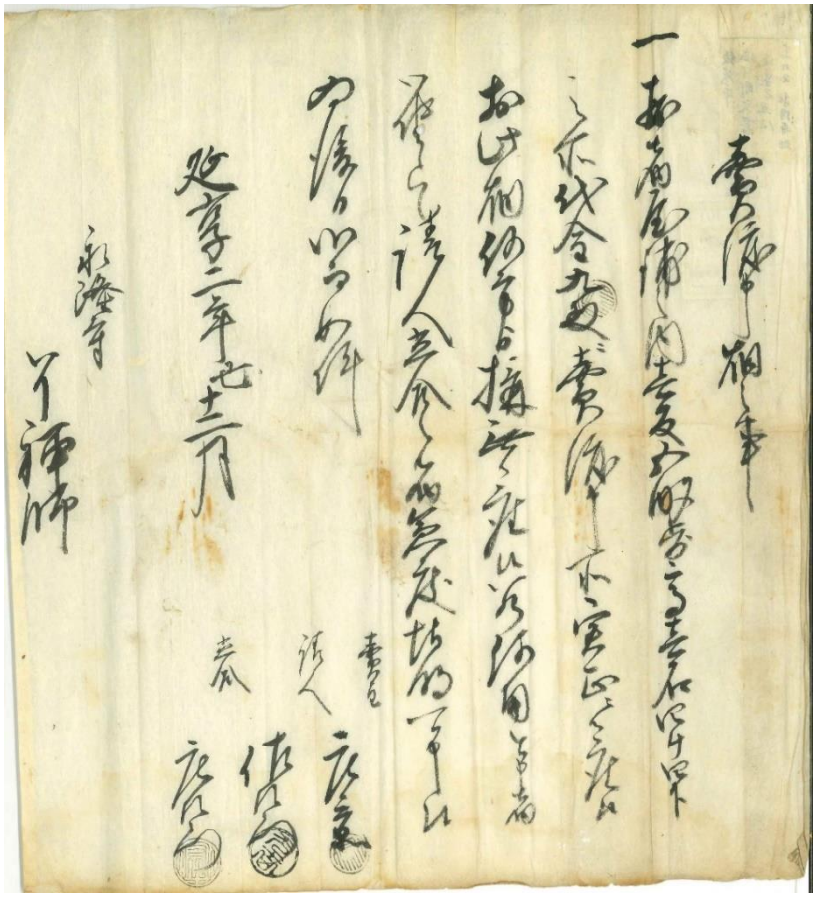
問合之儀者、右繪圖之通廻り間何間と相定候、
境内東境先年五拾九年以前辰ノ年宇右衛門と論所ニ
罷成候所ニ、御代官様下知ニ而名主組頭立合境石
相立申候由、然所彼場所此度吉右衛門と諍ニ罷成
候得共、先年之場所覚候もの共御座候ニ付我等共
村中立合致吟味候得者、古境石相知内々ニ而
埒明候、為後證繪圖證文ニいたし名主組頭
惣百姓印形加置者也

名主　庄左衛門
組頭　佐左衛門
同断　仁右衛門
同断　久右衛門
惣百姓

享保十九年
寅九月

〈解説〉
永隆寺境内の東境について、59年以前辰年（延宝4年＝1676）に宇右衛門と争論になったので、代官所の下知で境石を立てた。今回吉右衛門と争いになったが、村中が立合って境石がわかったので後証のため絵図証文を残す。

101-28 庄兵衛畑地売渡証文



賣渡申畑之事

一拙者屋鋪之内壱反五畝歩高壱石四斗四升
之所代金九両ニ賣渡申所実正ニ御座候、
於此畑何方より構無御座候、若何角と申者
御座候ハヾ請人立合之者急度埒明可申候、
為後日仍而如件

賣主　庄兵衛　㊞
請人　佐左衛門㊞
立合　庄左衛門㊞

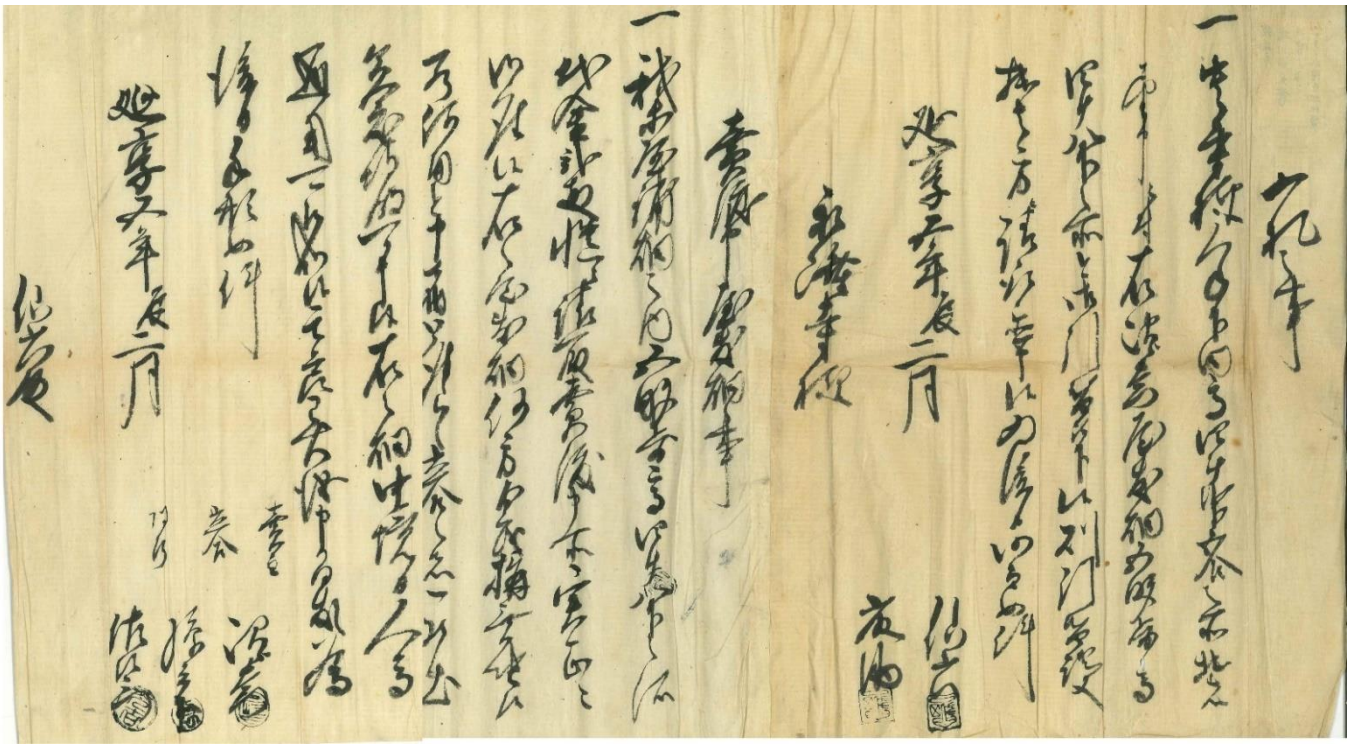
延享二年丑十二月

永隆寺
了禅師

〈解説〉

庄兵衛の屋敷内１反５畝歩、高１石４斗４升の畑を金９両で売り渡すことに間違いありません。文句を言う者があれば請人立合い人が対応します。永隆寺了禅師宛て。

101-29 屋敷畑売渡証文

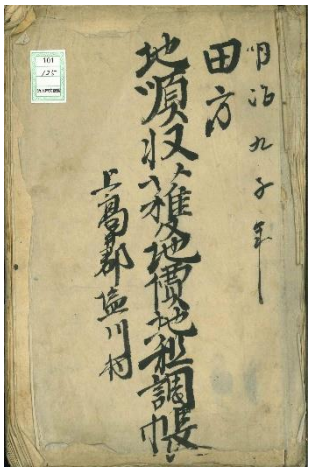


一札之事
一貴寺様くね下田高四斗弐升五合之所、拙者
届申ニ付右次郎右衛門屋敷畑五畝歩高
四斗八升之所と御引替被下候、則引替證文
拙者方ニ請取置申候、為後日仍而如件
延享五年辰二月　仙六 印　藤助 印
永隆寺様

（貼り継ぎ）
賣渡申屋敷畑ノ事
一我等屋鋪畑之内五畝歩高四斗八升之所、
代金弐両慥ニ請取賣渡申所実正ニ
御座候、右之屋敷畑何方より茂構無御座候、
若何角と申者御座候ハヾ立合之者罷出
急度埒明可申候、右之畑中境より人馬
通用可被成候、其節異儀申間敷候、為
後日手形如件
賣主　次郎右衛門㊞
立合　孫兵衛　㊞
同断　佐左衛門　㊞
延享五年辰二月
仙六殿

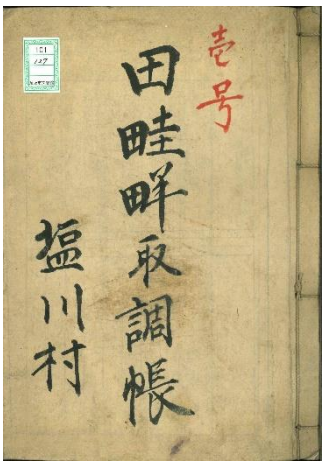
〈解説〉
まず次郎右衛門が屋敷畑の内5畝歩、高4斗8升の所を金2両で仙六に売り渡す。文句を言う者がいれば立合い人が対応する。次に、仙六はこの屋敷畑を永隆寺所有のくね下の田高4斗2升5合の所と引替える。そのため引替証文を請取っておく。

3　収穫地価地租・土地台帳

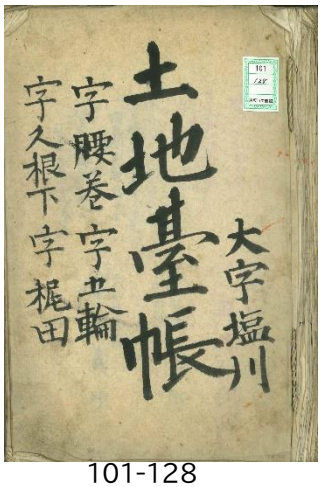


101-125

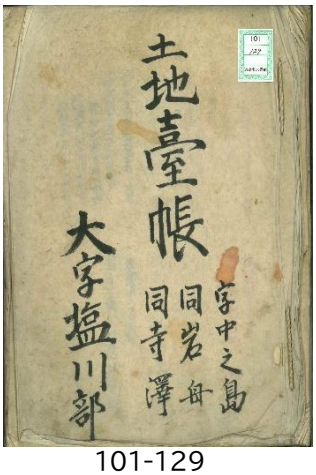
101-126



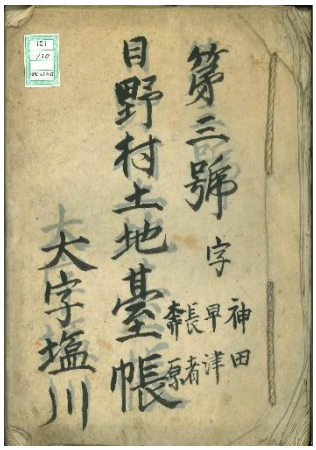
101-127



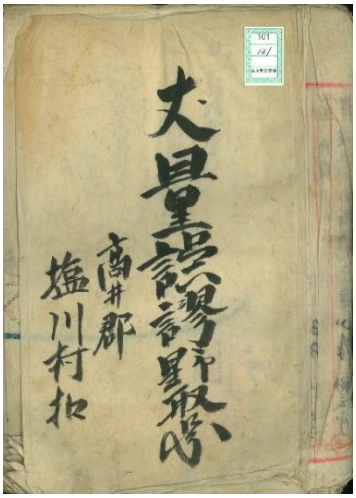
101-128



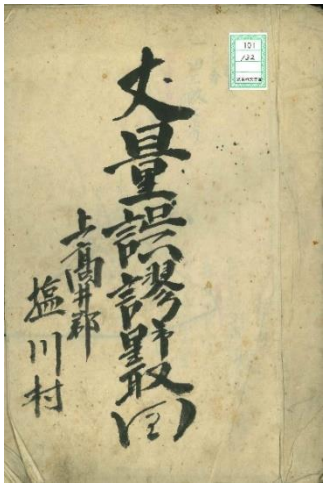
101-129



101-130



101-131



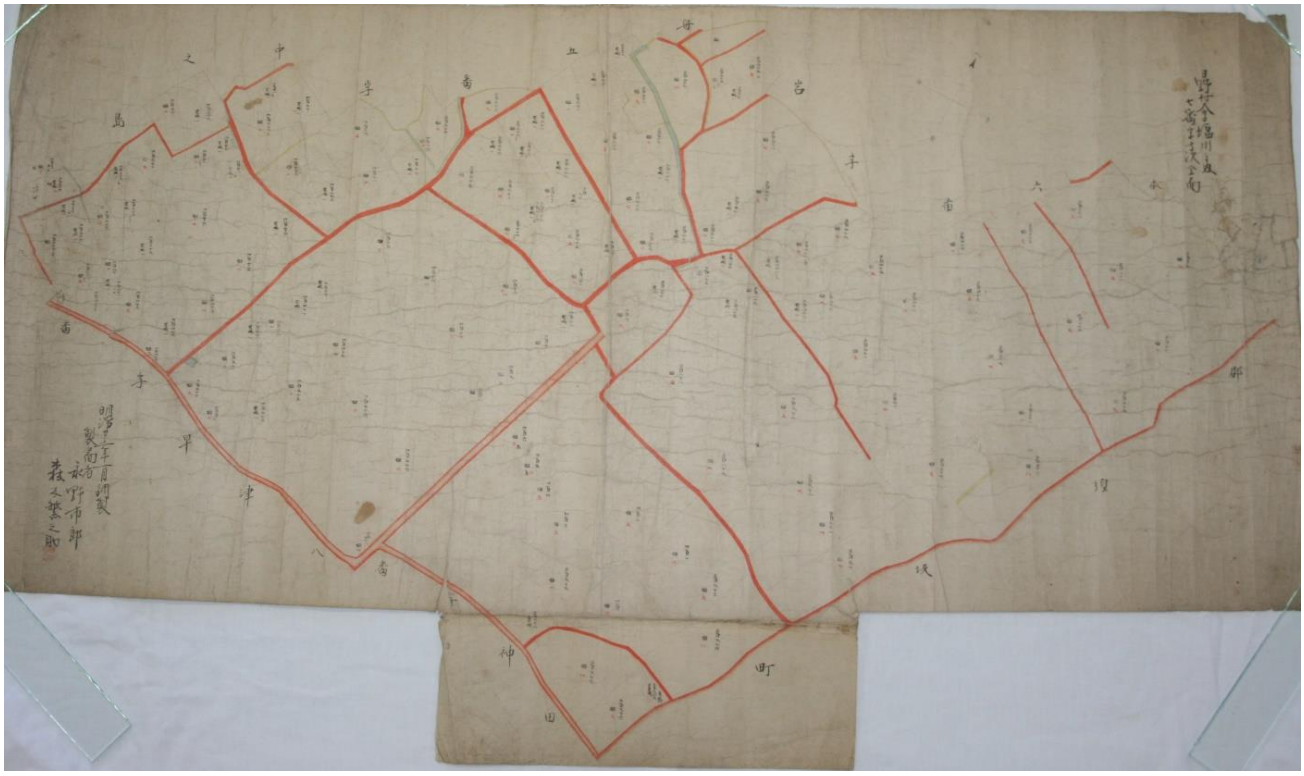
101-132

〈解説〉

125	田方地順収穫地価地租調帳	明治９年
126	地順収穫地価地租調帳	明治９年
127	田畦畔取調帳	明治１６年
128	土地台帳（字腰巻・五輪・久根下・梶田）	
129	土地台帳（字中之島・岩船・寺澤）	
130	日野村土地台帳（字神田・早津・長者・柳原）	
131	丈量誤謬野取図	
132	丈量誤謬野取図	

4　日野村大字塩川之内地図

101-704-7　寺澤（十ノ七）



7　日野村大字塩川之内七番寺沢全図

〈704-7 の説明〉
日野村大字塩川之内
　七番字寺沢全図

明治廿三年一月調製
　製図者　永野市郎
　　森木繁之助㊞

〈704-6 の説明〉
日野村大字塩川之内
　六番字岩船全図

明治廿三年一月調製
　製図者　永野市郎
　　森木繁之助㊞

101-704-6 岩船(十ノ六)

日野村大字塩川之内絵図　10 点

1　日野村大字塩川之内壱番腰巻　拾壱番柳原全図
明治 23 年 1 月　製図者　森木繁之助

2　日野村大字塩川之内貳番字五輪全図
明治 23 年 1 月　製図者　森木繁之助

3　日野村大字塩川之内三番字久根下全図
明治 23 年 1 月　製図者　森木繁之助

4　日野村大字塩川之内四番字梶田全図
明治 23 年 1 月　製図者　永野市郎
森木繁之助

5　日野村大字塩川之内五番字中之島全図
明治 23 年 1 月　製図者　永野市郎
森木繁之助

6　日野村大字塩川之内六番字岩船全図（展示）
明治 23 年 1 月　製図者　永野市郎
森木繁之助

7　日野村大字塩川之内七番寺沢全図（展示）
明治 23 年 1 月　製図者　永野市郎
森木繁之助

8　日野村大字塩川之内八番字神田全図
明治 23 年 1 月　製図者　森木繁之助

9　日野村大字塩川之内九番字早津全図
明治 23 年 1 月　製図者　森木繁之助

10　日野村大字塩川之内拾番字長者全図
明治 23 年 1 月　製図者　森木繁之助

6　日野村大字塩川之内六番字岩船全図

褒詞・褒状に関連する藩主

11代　直格（なおただ）　長門守　　藩主在位　文政４巳年（1821）～　弘化２巳年（1845）
　　駿府加番、呉服橋御門番
　○天保４巳年（1833）　天保のききん始まる　「稀成違作」
　○天保５午年（1834）　江戸上屋敷の南八町堀移転、元治２丑年（1864）迄
　「今般大名小路御上屋敷御用に付、御上地なされ代地として南八町堀松平
　　右近将監様御屋敷幷河岸揚場とも御拝領」
　○天保７申年（1836）　天保の大凶作　　「稀成凶作」

12代　直武　内蔵頭　　藩主在位　弘化２巳年(1845)　～　文久元酉年(1861)
　　駿府加番、大坂加番、呉服橋御門番　ほか
　○天保14卯年(1843)　若殿様乗出
　○弘化４未年（1847）善光寺地震　　＊大風（台風）不明
　○嘉永３戌年（1850）御改革　　＊このころ財政改革（借財）
　○安政２卯年（1855）御締直

もんじょ紹介　No.29
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
発行　2024(令和6)年3月
須坂市文書館
須坂市大字須坂812番地2
（旧上高井郡役所内）
TEL　026－285－9041
FAX　026－285－9175
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝